



大淀川に生息し固有種の可能性が高いとされるシマドショウユ(中島さん提供)

都城盆地の大淀川水系生息

シマドショウユ新種か

胸びれの骨に特徴

23
7/23

都城盆地周辺の大淀川水系の河川に生息するシマドショウユが固有種の可能性が高いことが、福岡県保健環境研究所の研究職員中島淳さん(34)の調べで分かった。中島さんは「オオヨド

の形態であることが分かった。

新種と認められるためには国際的に著名な学術誌に掲載される必要があるという。「魚類学雑誌」の編集員などを務める宮崎大農学部

の岩槻幸雄教授は「シマドショウユについては、これまで本県では詳細な調査がなされていなかった。学名が付いて新種と認められるよう期待している」と語る。

シマドショウユ」と和名をつけて日本魚類学会に論文を発表、学名誌である「魚類学雑誌」に掲載されている。シマドショウユは国内では北海道、沖縄県以外に生息。シマドショウユを飼育す

る小林市・出の山淡水魚水族館によると、体長約10センチで、清流の砂がある川底にすみ雑食性という。淡水魚類の研究をしている中島さんは、2009年7月に大淀川水系の河川からシマドショウユの雄2匹を採集。遺伝子解析や解剖を行い、九州内のシマドショウユとは異なる独自の遺伝子的特徴を持ち、最も頭部に近い胸びれの骨が長方形で中央部にくびれがある独特

で、以前生息していたとされる流域で採集できず、生息数が減ってきている可能性がある。環境省のレッドデータブックなどに登録され、保全対象になればいい」と話している。